2021年度 日本インターンシップ学会東日本支部 第2回研究会報告

報告者　二上武生（東日本支部運営委員）

2022年3月23日（水）13:00～15:30に第2回研究会をオンライン形式（zoom）にて開催いたしました。当日は北海道、関東、関西、中国、四国、九州エリア等、全国から26名の参加がありました。参加者は、大学教職員の他に、行政機関の方、大学コンソーシアムの方、就職支援やインターンシップをコーディネートする企業の方にも参加いただきました。

運営委員の戸崎肇先生による司会のもと、東日本支部長の松坂暢浩先生による開催挨拶と趣旨説明の後、第 4 回槙本記念賞 「秀逸な事例」受賞大学2校による事例発表と意見交換が行われました。

一件目は、山形大学の山本美奈子先生から 「インストラクショナルデザインによるオンライン・インターンシップの設計と運営-産学連携による取組み-」のご発表がありました。事前学習をインストラクショナルデザインの理論を踏まえ、科学的アプローチをもとに設計した事例を具体的にご説明いただきました。経験と勘からの脱却、人に依存しない質を確保したプログラム構築ができる事例として参考になりました。

二件目は、名古屋産業大学の今永典秀先生から「地域企業の魅力発見インターンシップ -地域企業を複数社体験する NPO 法人 G-net によるシゴトリップの事例より-」のご発表がありました。受入機関との継続的関係を構築されたこと、インターンシップに関わる専門人材育成の必要性と専門人材に求められる要素を改めて確認することができました。

最後に支部長の松坂暢浩先生より、総括として三点が示されました。一点目として、専門人材の重要性を改めて感じたこと、一人の教員ができることには限りがあり、NPO、中小企業団体等、様々な機関との連携ができる人材が求められること。二点目として、多様なインターンシップの在り方を示してくれたこと、実施期間の議論だけでなく、中長期インターンシップへの橋渡しとなる短期インターンシップもあること。三点目として、学生たちの学びを深めるために、受入企業の社員との対話が重要であること、そのために、ただインターンシップに学生をいかせるだけでなく、事前学習を通じた質問行動等を促す仕組みや仕掛けが大事であること。

研究会後の参加者アンケートは17名の方から回答があり、研究会の満足度は「大変参考になった」「参考になった」あわせて100%でした。発表後の意見交換含めて盛会のうちに研究会を終えることができました。